【資料紹介】

吹上遺跡確認調査出土土器について

鈴木　一郎

１．はじめに

令和４年 12 月 20 日（火）吹上遺跡（和光市白子３丁目 4385-1）において、駐車場建設に伴う確認調査を行った。確認調査地点は、吹上遺跡の道路に沿って区分しているＢ地区に当たり第４次調査区の東側で、第３次調査区の南側である（第１図）。この調査では、遺構・遺物が確認され、その際に出土遺物を取り上げ、遺失物届を行った。今回はその資料について報告を行う。

２．確認調査

開発予定地を、重機によりトレンチを 10 本掘削した（第２図）。各トレンチは表土・耕作土などを掘削し、ローム層上面において遺構確認を行った。ほとんどのトレンチは地表からの深さ 60 ～ 140㎝でハードローム層を確認し、過去の耕作や天地返しにより遺構・遺物の存在する地層が壊されていた。その中で、１か所の６トレンチにおいて地表から 80㎝で遺構が確認され、人力でジョレンによるプラン確認を行っている最中に遺物が出土した。遺構は平面プランと覆土の色調、周辺調査状況、出土遺物の状況などから弥生時代後期の住居跡で平面形態は小判型と思われる。覆土の厚さは、ボーリングステッキにより 30㎝と推定される。開発予定は砂利敷駐車場であり、遺構と建設工事面との間に保護層を十分に保つことが確認されたため、事業主と保存に関する調整・協議を行った結果、発掘調査は行わず、盛土保存の措置をとることとなった。隣地との境界杭を測量の基準としてトレンチ位置、地表からの深さ、遺構範囲を測量した後、重機による埋め戻しを行い現地確認調査は終了した。出土遺物は２点であり、現地調査終了後和光市歴史資料室に持ち帰り、水洗、注記を行った。遺物の注記は 13・シ６トレ住 20221220 である。

３．出土遺物

遺構から出土した遺物は２点とも土器である。

第４図１は、遺構確認のジョレン掛けで出土した。壺形土器の肩部破片である。表面はヘラミガキ、赤彩、裏面はナデ調査されている。胎土は白色粒子、小石、雲母を含む。色調は明赤褐色（2.5 Ｙ Ｒ 5/6）である。

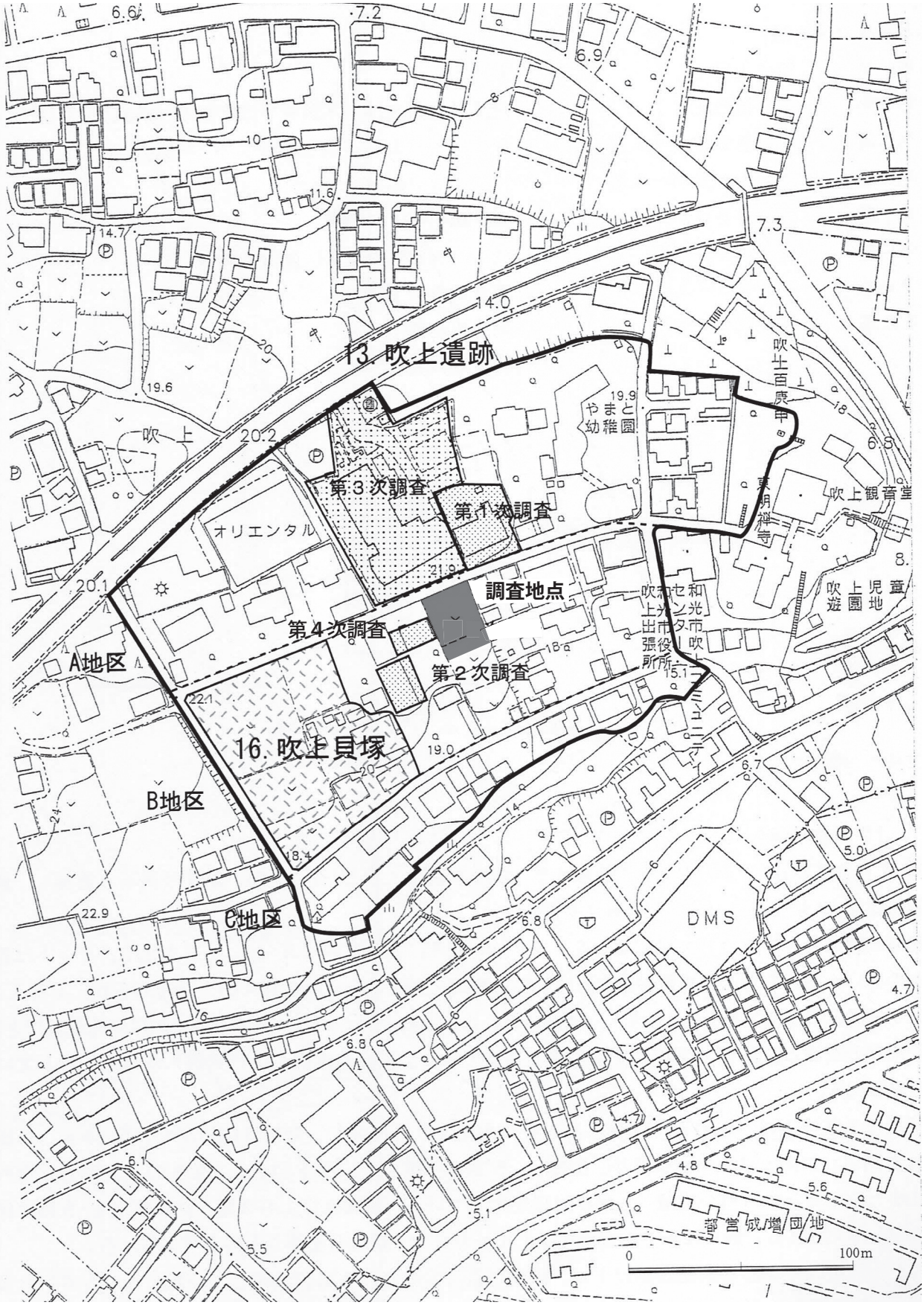
第４図２は、覆土上部から出土した。台付甕形土器の脚部破片である。表面は全体的に縦方向のハケ目調整、底部内面はヘラナデ、脚部内面は雑なハケ目調整が施されている。胎土は白色粒子、赤色粒子、小石を含む。色調は褐色（7.5 Ｙ Ｒ 3/4）である。

４．まとめにかえて

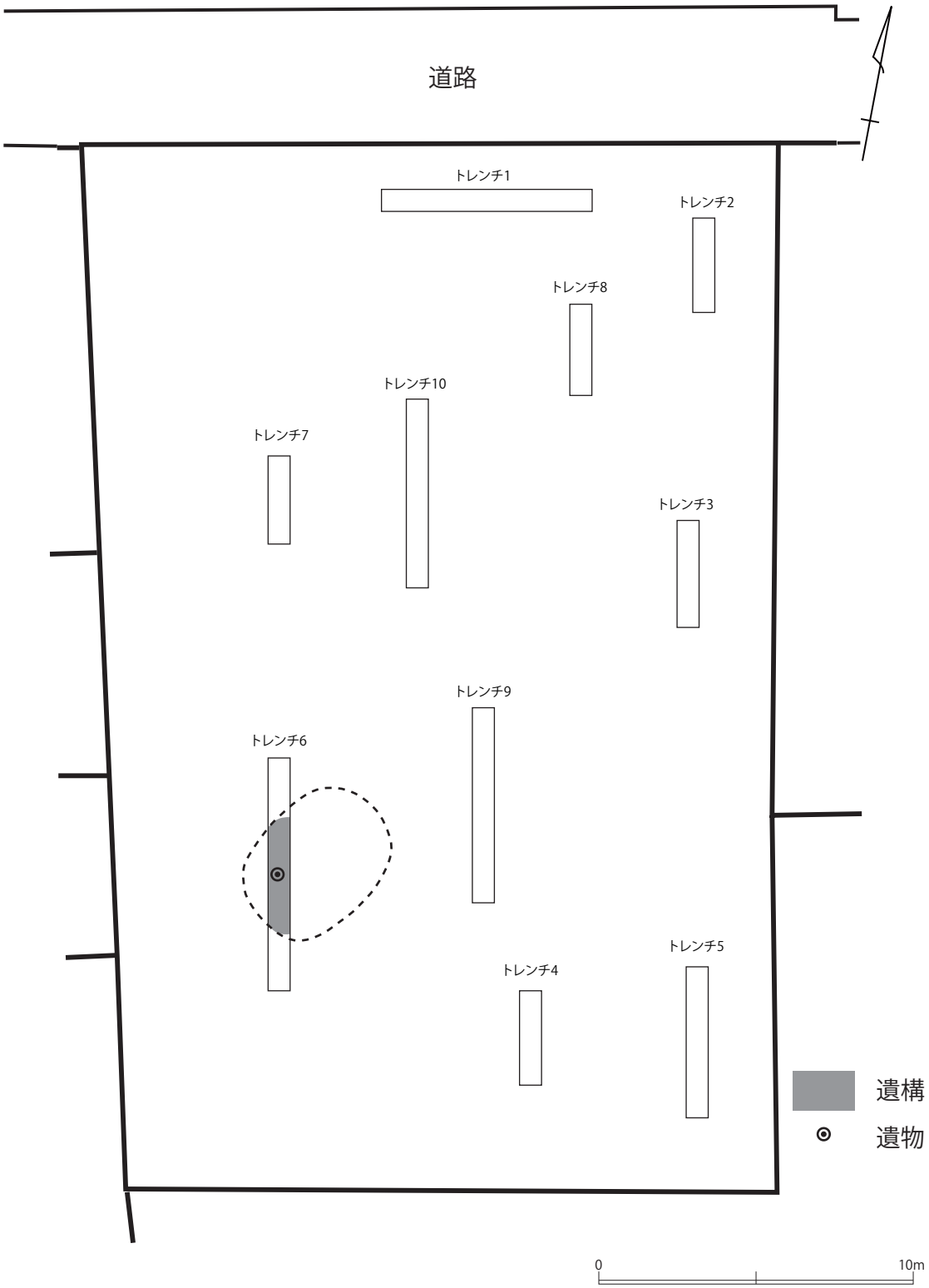
今回の確認調査地点は、盛土保存の措置となったが、遺物が出土したため、本紀要に資料報告として掲載した。第５図の吹上遺跡第３次調査区の南側で、環濠の推定ラインの判断も難しいが、環濠内側の住居跡と考えられる。出土遺物を見ても、第３次調査区の弥生時代後期中葉の住居跡及び環濠出土の土器（東海地方の影響を受けたハケ刺突文土器群・下戸塚式土器）と同様の土器と見られる。

【参考文献】

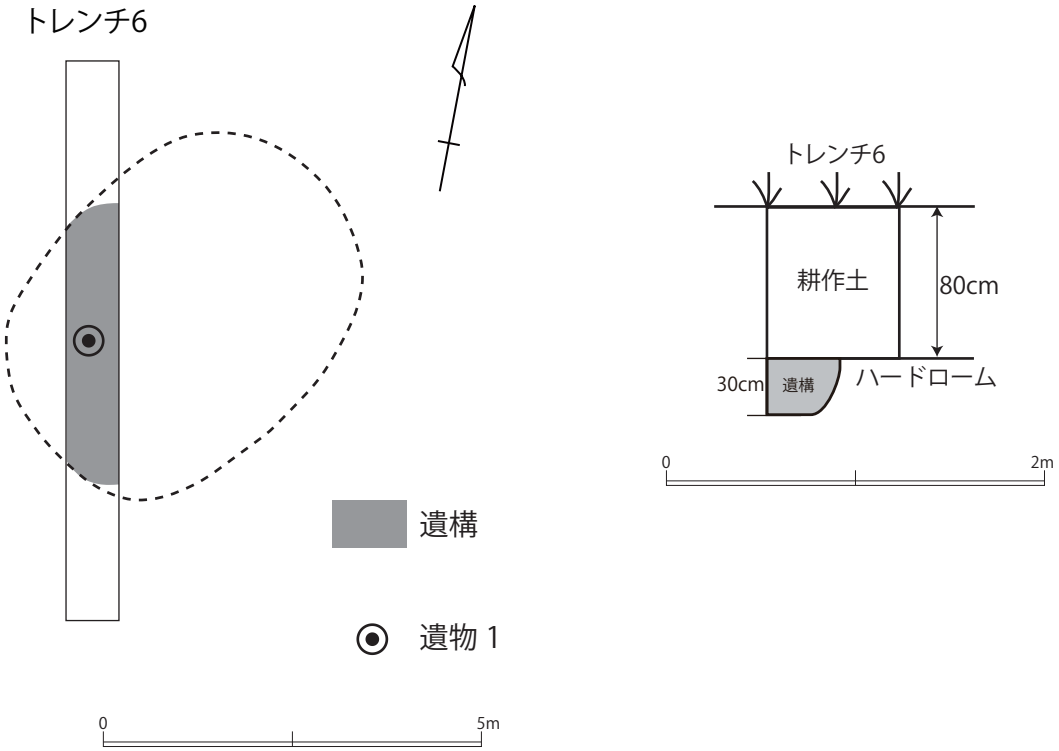
鈴木一郎ほか 2003『吹上遺跡（第３次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第 30 集　和光市遺跡調査会・和光市教育委員会



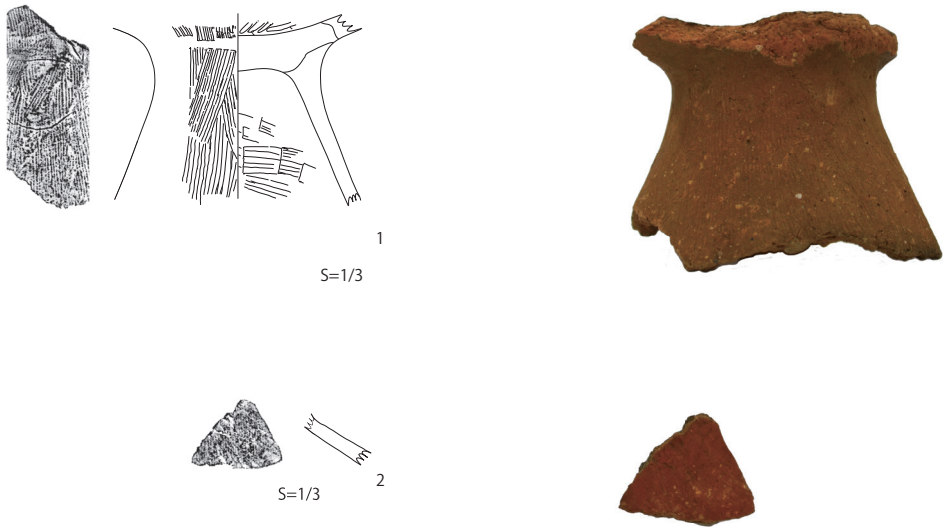
第１図　吹上遺跡調査位置図



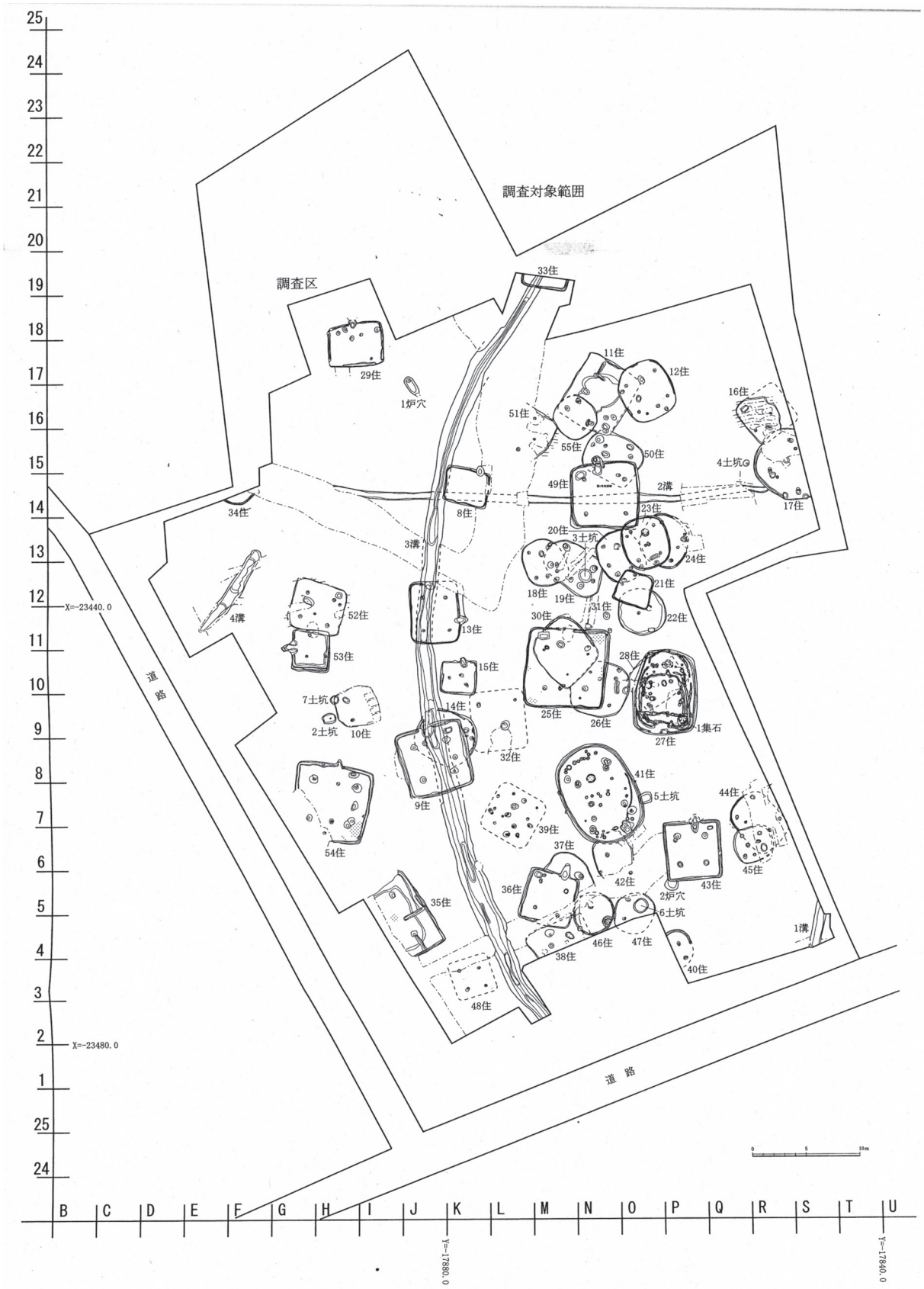
第２図　確認調査トレンチ配置図



第３図　６トレンチ平面図・柱状図



第４図　確認調査出土遺物　実測図・写真



第５図　吹上遺跡（第３次）　遺構配置図

第６図　確認調査地点全景

第７図　１トレンチ掘削状況

第８図　６トレンチ掘削状況

第９図　６トレンチ遺構確認（住居跡）

第 10 図　６トレンチ土器確認状態

第 11 図　６トレンチ土器出土状態

すずき　いちろう（和光市教育委員会）